

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

- 第4四半期の総来館者数は3,173人で、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(5,157人)と比べ、1,984人、約38.5%の減となった。事業別に分析すると、展示事業は前年度の7%増で入場者数が大きく変わらないことから、上映事業の入場者数の減少が要因となっている。コロナ禍の影響により、記念館の中心客層であるシニア層の外出控えや動画配信サービスの発展に伴う若年層の映画館離れ等が来館者減の大きな要因となっていると考えられるが、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値と比べ、判定評価の評価項目にある80%以上の水準に満たないことから、5点減点とする。引き続き、新たな客層の開拓や上映解説・アフタートークといった記念館ならではの特色ある事業の充実など、来館者確保に向けて取り組んでほしい。

月別来館者数:864人(1月)、1,170人(2月)、1,139人(3月)

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- 通常の設定保守・点検等は適切に実施されている。
- 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- 施設の維持管理のため、映写室窓気密ゴム修繕作業及び空調調査、映像資料室・客席通路誘導灯交換作業等を実施した。

● 資料等の維持管理

- 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- 展示事業では、第3四半期に引き続き、3月13日まで、企画展「映画の分類学入門—ジャンルで読み解くハリウッド」の展示を行った。3月の来館者数はやや落ち込んだものの、1月・2月の来館者数は前年同月に比べ大幅に増加しており、取材件数も今年度で最も多かったことから、高い注目を集めていたことが伺える。また、3月18日からは川喜多夫妻の長女である川喜多和子の没後30年を機に、フランス映画社のBOWシリーズを中心に和子が愛した映画を振り返る企画展「BOWシリーズの全貌—没後30年川喜多和子が愛した映画」を実施している。
- 上映事業では、企画展関連上映作品として、アクション、西部劇、ホラーといったこれまで上映してこなかった近年の公開作を中心に選定したことで新たな観客層の開拓につなげている。一方で、作品によって観覧者数にばらつきがあることから、展示と連動した上映作品という制約はあるものの、集客性のある上映作品の選定や周知方法等を工夫する必要があると思われる。

● 調査、研究及び情報提供

- 次期企画展示の調査研究のため、国立映画アーカイブや関係者を訪ね、資料調査及び資料下見等を行っている。
- 旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)特別公開に向けて、和辻氏の遺族宅での資料写真撮影や姫路文学館との情報交換等を行っている。
- 情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、特別展にて制作した展示物を茅ヶ崎市美術館へ貸し出し、近隣施設との連携強化に努めるとともに研究成果を広く活用している。

● 広報及び宣伝等

- 毎月の市広報に展覧会や上映内容などの情報を欠かさず掲載しているほか、市役所本庁舎内のモニターや広告パネルも活用し、より多くの市民等へ利用促進の情報発信を行った。

● その他の事業

- 「はじめてのシナリオ教室」(全3回)を実施し、市民等がシナリオの構成や書き方について学ぶことで、映画に対する興味を深める機会を設けた。
- 企画展に関連したテーマについて、ゲストによるトークイベントを開催した。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・ 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
1月分:2月14日、2月分:3月14日、3月分:4月14日提出

● 事故・苦情対応

- ・ マスク未着用の方に対し着用の声掛けと50円で販売の旨お伝えしたが、不快に思われ入館せずに帰られた。→ガイドラインに従って必要な声掛けは行うが、不快に思われないよう留意して対応することとした。
- ・ 映画のチケット購入が記念館窓口のみであることが不便との意見をいただいたため、インターネットでの販売の可能性について引き続き検討していくこととした。
- ・ 女子トイレの手洗い場の排水が悪いとの意見があったため、薬剤で対応を行った。
- ・ 映画チケットの電話予約について、氏名等の記載を間違っていたため、確認方法を徹底するよう意見があったことから、今後はより一層注意し、チケット引換の際は予約番号だけでなく、名前も確認することを徹底することとした。
- ・ 展示室内で写真撮影している方がいたため、注意をし、今後の対応策として目立つところに注意スタンドを移動した。
- ・ その他、事故や苦情等があった際には、内部で情報共有を行い、速やかに対応策を検討し、対応している。

● その他

- ・ キュレーターによる上映後の上映解説や展示解説を実施することにより、観覧者の満足度を高めるとともに、リピーターの獲得に努めている。
- ・ 3月末までインターン生1名の受け入れを行った。次世代の映画文化の担い手に対し、映画・映像に関する知識を深める機会を提供し、その育成に寄与したことを評価したい。
- ・ 近隣文化施設5館と連携し「ミュージアムめぐりスタンプラリー」を実施したことで、大河ドラマ放送の影響を受けた館からの回遊性の向上と記念館の周知につながった。
- ・ 2月28日から3月5日まで満足度アンケート調査を実施し、市民利用率及び展示や上映の内容、職員の対応など、来館者のニーズ把握に努めた。
- ・ 市主催で旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)で実施した若手アート事業に協力し、施設活用の可能性を試行した。

5 全体評価

- ・ 今期指定管理期間の第4四半期において最多となった昨年度の来館者数に対し、今年度は236人、約7%の減となった。また、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(5,157人)と比べ61.5%となり、判定評価の評価項目にある80%以上の水準に満たないことから、5点減点とする。令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行となり、市民等の外出や観光客の増加も見込まれることから、上映作品の選考や企画内容の更なる充実について検討を行い、記念館の周知・広報に一層努めて欲しい。
- ・ 来館者の映画選びの指針・参考となるよう幅広く作品を紹介した展示内容の効果もあり、若年層の来館が増加するなど、新たな来館者層の掘り起こしに取り組んでおり評価できる。また、今年度の友の会合計会員数は527名という結果となり、昨年比101名の増となっていることから、友の会制度について市民等に着実に浸透していることが伺えるため、引き続き、入会者の映画への興味や関心がより深まり、満足度を高めることのできる事業の実施を期待したい。
- ・ 市と連携し、老朽化した設備の更新や不具合箇所の修繕について、時期を合わせて一体的に行うことで、効率的かつ効果的な整備が図られ、来館者の利便が向上した。
- ・ 施設の維持管理などの業務に関しては、日常点検をはじめ、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和4年度第4四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第4四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	0	×	5
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			5

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%